

令和2年度厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）
分担研究報告書

ゲーム障害の診断・治療法の確立に関する研究（20GC1022）

研究分担者 館農 勝 ときわ病院・理事長

研究要旨

ゲーム障害に対応する医療機関の診療実態調査として、札幌市内において、ゲーム障害の有病率が高いとされる児童思春期のメンタルケアを担当する小児科医・精神科医を対象にアンケート調査を行い、ゲーム障害の診療実態を調査した。

館農 勝・ときわ病院・理事長

A. 研究目的

ゲーム障害は中高生を中心とした思春期において有病率が高い。本研究は、札幌市内において児童思春期のメンタルケアを担当する小児科医・精神科医を対象にアンケート調査を行いゲーム障害の診療実態を調査することを目的とした。

B. 研究方法

札幌市内において児童思春期のメンタルケアを担当する小児科医・精神科医62名を対象とし、郵送によるアンケートを行った。

（倫理面への配慮）

ときわ病院倫理委員会の承認を得た。

C. 研究結果

合計33名の医師から回答を得た（回収率：54.1%）。ゲームの問題を抱えた受診症例の数は、年間0から120例で、中央値は10例であった。ICD-11のゲーム障害の診断基準に基づき、直近12ヶ月のゲーム障害の患者数についてたずねたところ、回答は0から70例で、中央値は2例であった。

D. 考察

今回の調査の結果から、ゲームに関連

した問題で医療機関を受診する症例は少なくないことが分かった。

E. 結論

医療機関に通院しているゲームに関連した問題を抱える症例は少なくないが、専門的な治療を提供している医療機関はほとんどなかった。増加するゲーム障害への医療のニーズに対して、十分な対応医療機関が存在しないことが分かった。

F. 健康危険情報

（分担研究報告書には記入せずに、総括研究報告書にまとめて記入）

G. 研究発表

1. 論文発表

Katsuki R, Tateno M, et al. Psychiatry Clin Neurosci 2020;74:652-658.

館農勝. 札幌市医師会医学会誌. 2020;45:95-96.

2. 学会発表

館農勝 他. 児童思春期症例に対応する医療機関におけるゲーム障害・ネット依存の診療実態調査. 第45回北海道児童青年精神保健学会例会（令和3年2月7日, 札幌）

H. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし